

- 1 題材名 きょくのとくちょうをいかしてうたおう（2時間）
教材名 表現（歌唱）「うみ」（林柳波作詞 井上武士作曲）

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

- A表現（1）歌唱 ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。
イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。
ウ(イ) 自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能
〔共通事項〕（1）ア リズム、拍、旋律
イ
・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：リズム、旋律

（1）題材観

本題材では、曲想とリズムや旋律の特徴との関わりについて考えたり感じ取ったりすることで、曲の特徴を生かした歌い方について思いをもち、歌唱表現を工夫する楽しさを味わうことを目的としている。歌詞の表す情景や気持ちを想像し、これまで学習してきた拍やリズムを手掛かりに、曲がもつ雰囲気を感じ取って、どのように歌うかについて思いをもたせたい。また、体を動かしたり、曲の特徴を生かして表情豊かに歌ったりする活動を通して、音楽のよさや楽しさを感じながら、仲間と協働して、進んで音や音楽と関わっていこうとする態度を養いたい。

（2）指導観

＜教材について＞

「うみ」（林柳波作詞 井上武士作曲）は、3種類（) のリズムだけで構成された8小節の短い曲である。4小節ずつ反復されるリズムや、全体として山なりでありながら小さな上行と下行を繰り返す旋律が特徴的で、海の広がりや寄せては返す波を連想させるようなゆったりとした曲想である。本題材ではリズムと旋律を思考のよりどころとして学習を進めるが、旋律の特徴について学ぶことは児童にとって初めての経験となる。そこで、既習のリズムを窓口として曲の特徴を考える学習を行い、「同じリズムの繰り返しになっているが、変わっているものは何か」を考えさせることで、児童の視点が自然と旋律に向かうように授業を展開したい。

＜研究の視点との関わり＞

【視点1】

②既習を生かして学びを深める授業づくり

児童はこれまでに、「はくにとってリズムをうたう」で拍とリズムについて学習を積み重ねてきた。そこで本時では、図形譜を活用して「『うみ』に使われているリズムを仲間分けして、気付いたことはありますか」と発問する。既習のリズムを手掛かりとして「うみ」の特徴を調べることで、「リズムはくり返しになっているが音の高さは変わっている」と気付くことができるだろう。このように、児童が今もっている知識を活用して曲の特徴を調べたり、新たな要素を発見したりする経験は、主体的に学ぶ姿を育てることにつながる。リズムや旋律の違いによって曲の良さを感じさせることで、学ぶ姿勢と知識の両面から9年間の学びを支える土台作りを行いたい。

【視点2】

①音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て

音楽的な見方・考え方を働かせて「うみ」の特徴を考えさせるためには、児童が気付いたリズムや旋律の特徴によって生み出されるよさや面白さを体感させることが重要である。別のリズムや旋律に変えて歌い比べる活動や体を動かす活動を取り入れることで、3拍子のゆったりとした拍の流れや上行形の旋律による盛り上がりを感じ取らせたい。また、そのような活動の中で児童が気付いたことを全体で共有したり価値付けたりするために、問い返してより詳しく説明させたり、別の児童に話をつなげさせたりするなど、教師がファシリテーターとしての役割を果たしながら言語活動の充実を図る。その際、もう一度歌ったり聴いたりし

て確かめることも大切にしながら学習を進めていく。

【視点3】

評価の在り方＜主体的に学習に取り組む態度＞

粘り強く取り組んでいる様子と学習を自己調整しようとしている様子について、以下のような姿を見取って評価する。主に観察や授業中の発言内容から学習状況を把握するが、発言が苦手な児童もいることからワークシートの書き込み内容も補完的に扱って評価する。

粘り強く取り組んでいる様子

十分満足できると判断される姿…歌詞の内容やリズムや旋律などの曲の特徴を考えることに高い関心を持ち、繰り返し歌ったり自分の考えを友達に伝えたりして粘り強く取り組んでいる。

おおむね満足できると判断される姿…歌詞の内容やリズムや旋律などの曲の特徴を考えることに関心を持ち、繰り返し歌ったり友達の考えを聞いたりして粘り強く取り組んでいる。

自己調整しようとしている様子

十分満足できると判断される姿…歌詞の内容やリズムや旋律などと曲想との関わりについて考え、自分の考えをもつだけでなく、自己のイメージや経験と結び付けたり、友達の意見を理解したりしている。また、学習の内容を次に生かそうとしている。

おおむね満足できると判断される姿…歌詞の内容やリズムや旋律などと曲想との関わりについて考え、自分の考えをもつことができる。

努力が必要と判断される児童に対しては、以下の3つの手立てでおおむね満足できる姿へと導きたい。

①小さな行動を見逃さず、具体的に伝えてほめる

「まっすぐ立っているね」「口がよく動いているよ」「このリズムが同じだと気付いたんだね」など、児童が何か学習に向かう行動を見せた時に、即時的に評価し伝えることで「やってみよう」という気持ちや「先生は見てくれる」という安心感をもたせることができる。

②間違いや失敗を受け入れる土壌づくり

常時活動で自由な発想を保証したり、音楽のイメージについてどんな発言でも受け入れたりしながら児童が自分の考えを発信しやすい雰囲気づくりを目指す。

③児童の言葉をつなぐファシリテーション

「同じ考えの人はいるかな」「〇〇さんの言いたいことが伝わった人？」「もう一度説明できる人？」などと言葉掛けをしながら、児童の考えを別の児童の言葉でつなげていく。リズムや旋律や歌詞の内容に関わる意見を重点的に扱いながら、児童の考えをつなげ、広げ、深めることが教師の役割であり、そのような活動を行うことで、精一杯声を出して歌っていた児童が「うみ」のゆったりとした雰囲気に気付いて歌い方を考えたりするような変容を促すことができるだろう。

3 題材の目標

○リズムや旋律、歌詞の内容と曲想との関わりに気付くと共に、音楽表現を楽しむために必要な、自分の歌声および発音に気を付けて歌う技能を身に付ける。(知識及び技能)

○リズムや旋律、歌詞の内容と曲想との関わりを考えて、どのように歌うかについて思いをもつ。

(思考力、判断力、表現力等)

○リズムや旋律、歌詞の内容を生かして歌う学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知 曲想とリズムや旋律、歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。	①リズムや旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。	①リズムや旋律の特徴から表現を工夫する活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導計画及び評価計画（5時間扱い）（本時2/2）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す児童（生徒）の姿 【視点】	評価規準 （評価方法）		
				知技	思	態
◎リズムや旋律などの曲の特徴を感じ取り、思いをもって「うみ」を歌う。						
第一次	第1時	○常時活動 ・リズム回し ・こんにちは ○「うみ」の旋律と歌詞を知る。 ・模唱や交互唱で何度も歌い、曲に親しむ。 ○歌詞の表す情景を想像しながらのびのびと表現する。 ・詩を朗読する。 ・詩の意味を生かして表現を工夫する。 ☆〔拍、歌詞〕	○タンとタタのリズムや図形譜に慣れ親しませる。 【視点1②】 ○楽しく繰り返し歌える活動を行うことで、旋律や歌詞に慣れ親しませる。 ○歌詞の内容に合った読み方や歌い方をしている児童を称賛し、なぜそのようにしたのか聞いたり、別の歌い方と比べたりすることで歌詞の表す情景を想像しながら歌えるようにする。 ・「ひろいな」だから遠くまで届くように歌いました。 ・「ゆれて」だからゆれているように歌いました。	①知 （記述・発言・聴取）		
	第2時	○常時活動 ・リズム回し ・こんにちは ○リズムの反復と旋律の変化に気付く。 ・リズムの仲間分けをする。 ・リズムの反復に気付く。 ・旋律の変化に気付く。 ○リズムや旋律の特徴と曲想との関わりについて考える。 ・リズムや旋律を変えて歌い、元の歌と比較する。 ○曲の特徴を生かして「うみ」を歌う。 ☆〔リズム、拍、旋律〕	○タンとタタのリズムや図形譜に慣れ親しませる。 【視点1②】 ○児童がリズムの反復に気付いたら「変わっていることは何か」を問うことで旋律の変化に気付かせるようにする。 【視点1②】 ○「元のリズム（旋律）の方が素敵などころはどこ？」と問うことで「うみ」のよさを感じ取らせる。 ・伸ばす音があると広い感じがします。 ・音が高くなると本当に月が昇っていくような気がします。 【視点2①】 ○学んだことを生かし、思いをもって歌うことで音楽表現が高まったことを伝え、価値付ける。 【視点3】		①（記述・発言・聴取）	①（観察・記述・聴取）

6 本時の指導（3/5）

（1）本時の目標

リズムや旋律の特徴と、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながらどのように「うみ」を歌うかについて思いをもつ。

(2) 本時の展開

学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	○教師の働きかけ・目指す児童(生徒)の姿 ◇評価規準(評価方法) 【視点】
1 常時活動でリズムや音の高さに親しむ。 ・リズム回し 2 本時の目標を知る。 ・「うみ」を歌い、前時で海の様子を思い浮かべながら歌ったことを思い出す。 ・今日の学習では「リズム」を手掛かりに考えることを確認する。	○音楽の特徴を感じ取って体を動かしている児童に声をかけのびのびと音楽と関わる雰囲気を作る。 【視点3】 ○「うみ」の特徴を生かして歌うために、リズムについて調べることを伝えて学習の見通しをもたせる。
「うみ」をすてきにうたおう。	
3 「うみ」のリズムを調べる。 ・リズム打ちとリズム唱でリズムを確認する。 ・ワークシートのリズム譜を見てリズムを仲間分けする。 ・仲間分けして気付いたことを話し合う。 ☆〔リズム、旋律〕 4 リズムの反復や旋律の形がもたらす効果を体感する。 ・「タタタンタン」を別のリズムに変えて歌う。 ・音が高くない旋律で歌う。 ・歌ってみてどう感じたか話し合う。	○色や図形を用いてリズムが視覚的に捉えられる図形譜を使って調べさせる。 【視点1①】 〔図形譜を模様のように考えて仲間分けするように伝えることで3種類のリズムや反復に気付けるようにする。〕 ○児童がリズムの反復に気付いたところで、音の高さが視覚的に捉えられる図形譜と比べさせて「変わっているものは何か」と聞いて旋律の変化に気付かせる。 ○児童の気付きをもとに、歌い試したり教師が歌い聴かせて考えさせたりする。 ○もとのリズムや旋律から感じられる曲想についての発言をつないだり広げたりして「うみ」のよさを共有する。 ・タタのリズムが入ったほうが楽しく歌えるよ。 ・音が高くなると本当に月が昇るみたいだよ。 【視点2①】 【視点3】 ◇リズムや旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと 感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。 (思考・判断・表現) (記述・聴取)
・もとの旋律に戻して「うみ」のよさを味わう。 5 「うみ」の面白かったことや次に歌を歌うときに気を付けたいことを振り返る。	「みんなが気付いた、『うみ』のゆるる感じや月が昇っていく感じが伝わるように歌いましょう。」 ・3つのリズムだけでできていてびっくりした。 ・同じリズムでも、音が高くなると楽しかった。 ・音の高さに気を付けて歌うようにしたい。 ◇リズムや旋律の特徴から表現を工夫する活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) (観察・記述・聴取)